

「シャチホコ」から城を語る —織豊期・江戸時代から現代の再建天守鯨瓦まで—

熊本城調査研究センター 美濃口 紀子

楽しく学び！



熊本博物館キャラクターしゃちべえ

1) はじめに

「鯨瓦とは？」

- ・鯨は頭が龍あるいは虎で、背にするどい棘のある魚の形をした想像上の生き物とされる。
- ・鯨は口から水を吐くことから火除けのため屋根に置かれているとされるが、由来はよくわかっていない。

「鯨瓦の起源」

- ・鯨の原形は古代宮殿・寺院などの大棟で用いられた「鵄尾（シビ）」「鵄吻（シフン）」という棟飾が変化か。
- ・鎌倉時代末に成立の絵巻物「男衾（おぶすま）三郎絵詞」に大棟を咬んで反り上る魚形の棟飾が描かれており鎌倉時代末にはその後の鯨瓦の原形となる棟飾が存在したか。

■スライド：重要文化財 男衾（おぶすま）三郎絵詞【東京国立博物館蔵】

- ・同様の棟飾は中国南宋の禅宗寺院の建物・設備・仏具等を図示した「紙本志那禅刹図式」（大乘寺[石川県金沢市]蔵。鎌倉時代後末頃か？）に見られることから鎌倉時代に中国より、禅宗寺院の建築様式とともに鯨の祖型となるものが伝来したとも考えられる。

「シャチホコとは？」

- ・安土桃山時代の人々は鯨瓦を「シャチホコ」と呼んだり「鯨」と書き記していなかったかも知れない。
- ・中世から近世初期の辞典類では、「シャチホコ」は棟飾ではなく魚を指す言葉として見られ、漢字も「鯨」ではなく「鱸」を用いている。
- ・当時の辞書を見る限り、安土桃山時代には棟飾の瓦は「鵄吻（シフン）」と呼ばれていた可能性が高そうだ。
- ・「鯨」を屋根の棟飾の意味で使うようになるのは、江戸時代中期以降か。
- ・「鵄吻（シフン）」は中国では「螭吻（チフン）」とも呼ばれ、魚ではなく龍の子とも考えられている。

白鳳時代

7世紀



図1 渡鹿 A 遺跡出土 軒丸瓦・鵄尾（しび）[熊本博物館蔵]
出典：熊本市立熊本博物館 平成 23 年度 企画展図録『西海道と肥後国—出土品からみた古代のくまもと—』

白鳳時代

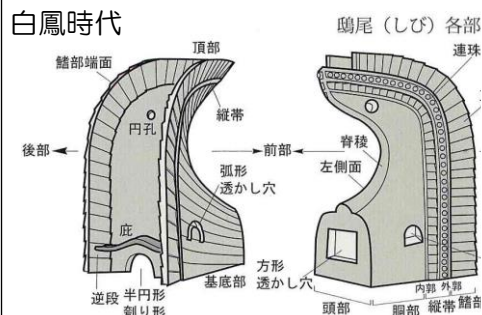


図2 鵄尾（しび）の各部名称
出典：熊本市立熊本博物館 平成 23 年度 企画展図録『西海道と肥後国—出土品からみた古代のくまもと—』

白鳳時代

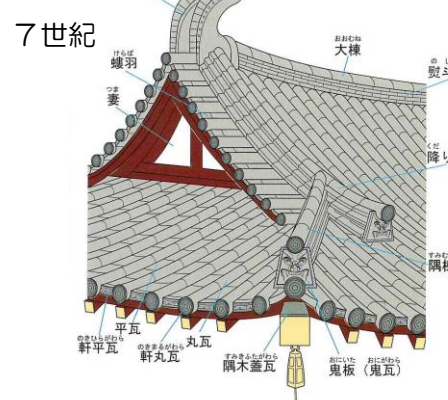


図3 屋根瓦各部名称
出典：熊本市立熊本博物館 平成 23 年度 企画展図録『西海道と肥後国—出土品からみた古代のくまもと—』

資料名	成立年代	表記	読み	説明等	魚	棟飾	海獣
塵添盛義抄	文安 2 年	1445	鱸	サチホコ	魚	○	
日蘭辞書	慶長 8 年	1603	鵄尾	オカタ	棟瓦か？		○
			Xachihoko	シャチホコ	メカジキ	○	
			Xifun	シフン	ある魚	○	
			Xibi	シビ	鰐	○	
瓦直段究之帖并瓦寸尺之覚 (御用瓦師寺島家文書)	元和 3 年	1617	しふん	シフン	棟瓦		○
節用集 (早稲田大学蔵)	慶長年間	1596~1615	鵄吻	シフン	魚の名前・棟瓦	○	○
			鱸	シャチホコ	魚	○	
本朝食鑑 九	元禄 5 年	1672	鱸	シャチ	魚、城楼の棟飾り、海獣	○	○
和漢音釈書言字考合類大節用集 二	享保 2 年	1717	鵄尾	シャチホコ			○
和漢音釈書言字考合類大節用集 五	享保 2 年	1717	魚虎	シャチホコ	頭は龍、体に刺あり		○
大和本草	宝永 6 年	1709	鵄尾	シャチホコ	魚、怪獣、城楼の棟飾	○	○
和漢三才図会	正徳 2 年	1712	魚虎	シャチホコ	頭は虎、体に刺あり		○
			蜃吻	シフン	城櫓、寺の棟飾		○

中近世の辞典類・記録などに見られるシャチホコ・シフン・シビ

表 1

滋賀県教育委員会松下浩氏作成の一覧表を基に作成

注) 上記の説明文&表 1 は、財団法人広島市文化財団 広島城 図録『金箔瓦の系譜』P31「コラム 鯨瓦」より、抜粋したものです。

2) 鯨瓦の登場（城郭で最古の例は？）

■「安土城の鯨瓦」 ※スライドで説明

3) 全国の城郭に広がる鯨瓦（広島城・松江城の例など）

■「広島城の鯨瓦」 ※スライドで説明

■「松江城の鯨瓦」 ※スライドで説明

4) 鯨瓦から何がわかるか（広島城の例など）

■「広島城の鯨瓦」の場合 ※スライドで説明

- ・胴部の成形が一体成形から上下の分割成形へ、
- ・胸鰭の成形が胴部との一体成形型から分離柄差し型へ、
- ・尾鰭の形態が扇形から二股形へ、
- ・鱗の表現が薄い粘土板一枚毎の貼り付け式 ⇒U 字形ヘラ刻み式 ⇒U 字スタンプ押し式へ

5) 熊本城の鯨瓦（織豊期・江戸時代から昭和・平成へ）

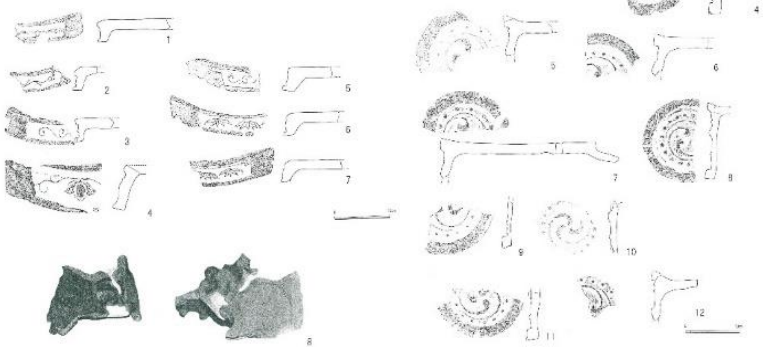
和暦	西暦	熊本城天守鯨瓦に関する主なできごと
慶長4年	1599	慶長四年八月吉日」銘軒平瓦。この頃、茶臼山の築城に着手
宝暦13年	1763	「宝暦十三末」（ひつじ年）銘入の鯨瓦が複数製作される。 （小山の瓦師「勘次郎」銘あり）
安政5年	1858	強風雨。熊本城一の天守の鯨吹き折られる。
明治4年頃	1871頃	大小天守が写真撮影され、鯨瓦も写る。 （プリンストン大学所蔵・長崎大学附属図書館所蔵古写真など）
明治10年	1877	西南戦争直前の火災により、熊本城大小天守ほか焼失。
昭和35年	1960	大小天守の再建（外観復元）に伴い、鯨瓦を製作。 （大天守鯨瓦 奈良市 鈴木吉治氏／小天守鯨瓦 姫路市 小林平二氏）※銘より
平成19年	2007	熊本城天守の鯨瓦に破損が見つかり、新たに製作。 （大天守鯨瓦 藤本勝巳氏・小天守鯨瓦 藤本康祐氏）
平成28年	2016	4月の熊本地震で熊本城被災。鯨瓦も落下・破損。
平成29年	2017	大小天守復旧工事に伴い、鯨瓦を新たに製作。 （大天守鯨瓦 藤本康祐氏・小天守鯨瓦 藤本修悟氏）

織豊期



鯨瓦（西出丸出土）

西出丸の遺構一括資料
1号土坑より出土
鯨瓦の破片を含む
（加藤期の所産か）





①鯨瓦（完形）



①の部分拡大



②鯨瓦（胸ビレ・腹ビレは欠失）

①鯨瓦
「宝暦十三末ノ八月」
1763 年
（熊本城顕彰会所蔵）
幅 355mm
×長さ 760mm
×高さ 1150mm

②鯨瓦
「宝暦十三末ノ七月」
1763 年
（熊本博物館所蔵）
①②とも
尾ヒレ部分に
「小山瓦師勘次郎作」の
銘あり



③鯨瓦破片
（尾ヒレ）
「宝暦十三末ノ七月」
1763 年

西南戦争直前の火事
（1877 年）により焼
損している

④鯨瓦破片（牙）

⑤同（目玉）

⑥同（耳）

西南戦争直前の火災

（1877 年）により焼損している



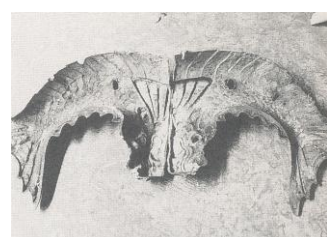
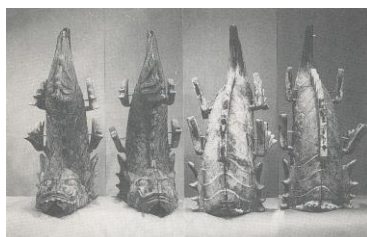
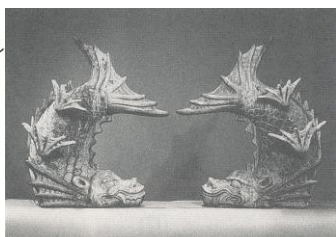
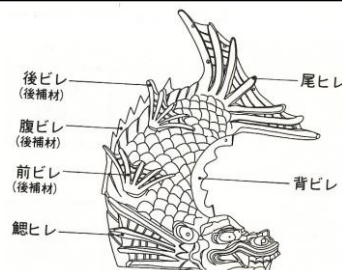
③の部分拡大「小山瓦師勘次郎作」の銘あり

宇土櫓の鯨（銅） ※「宇土櫓」報告書より

鯨の材質は蛍光X線分析の結果、本体部分は合金（銅 60%、鉛 30%、その他 10%）、補加された部材（腹鰭、横鰭）は青銅ではなく真鍮に近い合金である。製作技法は半割にした鑄造品を貼り合わせており、数箇所にはリベット状のものを使用している。なお、背ビレ・鰐ビレ・尾ビレは胴と一体化した表現で造り出されているが、腹ビレ・前ビレ・後ビレは別材として取り付けられている。一対は酷似しているが、「阿吽」の形式をとっており、口元にのみ大きな差異が認められる。青銅製鯨は、宇和島城天守（寛文 2～5 年：1662～65）、高知城天守（延享 4 年：1747）、佐賀城鯨の門（天保 9 年：1838）でデザイン異なる。

※注：（ ）内は建物の年代。鯨瓦では四天王寺元三大師堂鯨（寛文年間）が酷似。

宇土櫓にはもともと鯨はのつていなかったことは、明治 8 年末～9 年初め頃に撮影された古写真で確認できる。鯨を載せるいきさつについては、昭和 2 年の修理時に師団司令部に保管されていた鯨をのせたことが記録されている（熊本城顕彰会『熊本城』に掲載）。



宇土櫓の銅製鯨（鑄造） 左：雄（約 68kg） 右：雄（約 57kg） 高さ 96cm 幅 35cm 長さ 65cm

昭和 ※昭和 35 年（1960） 熊本城「天守再建」時の鯨瓦

【昭和の鯨瓦を製作した奈良と姫路の瓦職人】



「S34.5.13 奈良の瓦職来場 見本品持参」「S34.5.13 奈良の瓦職来場 見本品持参」「S34.7.2 奈良の鈴木氏、姫路の小林氏来場鯨 1/5 を持参す」



「S34.7.2 大天守 鯨 1/5」



鈴木吉治作之 六十六歳
啓之 三十歳



熊本城天守閣再建工事
昭和三十五年竣工
（大天守鯨の尾びれに刻んだ文字）



奈良市奈良阪（？）
瓦之
鈴木瓦工業株式會社
（大天守鯨の尾びれに刻んだ文字）

【昭和の鯨瓦完成と一般公開】 —デパートでお披露目—



「大天守 鯨」（S34.9.24 頃か）「S34.10.21 小天守鯨 百貨店」

【昭和の鯨瓦データ】

◆大天守の鯨瓦◆

- ・高さ 155 cm、
- ・幅 47 cm、
- ・重さ約 100 k g
- ・製作者

奈良市の鈴木瓦工業
鈴木吉治さん・啓之さん

◆小天守の鯨瓦◆

- ・高さ 130 cm、
- ・幅 40 cm、
- ・重さ約 80 k g
- ・製作者：

姫路市の小林平一さん・
平二さん・平三さん

【小守鯨の設置】—鯨瓦はどのように固定したか—



「S35.4.9 小守棟鯨受取付け」

「鯨釜」を取り付け、輪違い瓦も積んだ後、木製の「鯨受」に差し込むように、中が空洞の鯨瓦を上から被せて設置・固定している。その後、4枚のヒシも固定して、最後に棟の熨斗瓦などを整えて小守棟葺きの作業完了。



「S35.4.11 小守棟輪違い瓦積」



「S35.4.13 小守棟鯨据」



「S35.4.13 小守鯨 据付け」

■昭和の鯨瓦—そのモデルは?— ※スライドで説明

「昭和」「平成」の鯨瓦がずいぶん違うと思ったら
昭和 35 年天守再建時の大小の鯨瓦は、それぞれ
奈良と姫路の瓦職人さんが造っていたんだね!
 そのモデルは岡山城月見櫓の鯨瓦に近い、かな?
 あと、岩国城天守閣の鯨瓦にもよく似ているね!
 ちなみにおいら (しゃちべえ) は、江戸時代
 (宝暦 13 年 : 1763 年) の熊本城の鯨瓦だよ。
 ※ちなみに平成の鯨瓦は、宝暦の鯨瓦をモデルにして、
 熊本の瓦職人 (藤本鬼瓦さん) が造ったものなんだよ!

生粋の肥後っ子
 しゃちべえ



「S35.4.14 小守鯨取付」



「S35.4.22 小守棟葺き終り (西)」



「S35.4.22 小守棟葺き終り (東)」

【大天守鯨の設置】ー熊本城のシンボル、姿を現すー



「S35.5.1 大天守鯨取付」

「S35.5.1 大天守鯨取付」



「S35.5.1 大天守鯨揚げ」

「S35.5.1 大天守鯨据付」

「S35.5.1 大天守鯨据付」



「S35.5.1 大天守棟より」

「S35.8.17 大天守棟避雷針取付」

平成 ※平成 19 年 & 平成 29 年製作の「平成の鯨瓦」

【平成の鯨瓦製作】—地元熊本の「鬼師」登場—



■地元でつくられた鯨瓦！

昭和 35 年（1960）の天守再建から 48 年後の平成 20 年（2008）、初めて地元熊本の「鬼師」藤本勝巳氏（藤本鬼瓦：宇城市小川町）が製作した鯨瓦が天守の屋根を飾ったんだよ。天守閣のシンボルとも言える鯨瓦を作っている職人さんの姿、かっこいいね！

平成 28 年の熊本地震では鯨瓦も被災してしまった・・・。
とても悲しいことだったけど、その後は熊本城の被災を伝えるため、全国各地の展示会などに破片が出品されているんだよ。



平成の鬼師：藤本勝巳氏 モデルとなった宝暦の鯨瓦

【熊本地震の被災】—無残に落下・破損した鯨瓦—



【鯨瓦の復旧へ向けて】—親子三代、引き継がれる技術—



平成 19 年（2007）当時の鯨瓦製作は、父の勝巳氏（当時 77 才）と息子の康祐氏が行った



10 年後の鯨瓦製作は亡くなった勝巳氏に代わって息子の康祐氏（57 才）と孫の修悟氏（29 才）が引き継いだ

6) 鯨瓦から歴史をみる

- ①近世～近代の事件簿（尾張藩による改鋳：金含有量低下、博覧会出品、盗難）※スライドで説明
- ②戦争と文化財（広島城天守被爆、名古屋城天守焼失：文化財記録の大切さ） ※スライドで説明
- ③昭和の鯨瓦、その後 一役目を終えても愛されてー（熊本城、名古屋城） ※スライドで説明



大天守1階での鯨瓦展示のようす
被災前（～2016年4月）



「熊本城×特撮美術 天守再現プロジェクト展」
（熊本市現代美術館 2018年3月）

④現代、そして未来へ



鯨瓦のお披露目（わくわく座での展示）



大天守鯨瓦設置セレモニー



大天守鯨瓦設置のようす



天守閣展示リニューアル（3階イメージ） ※一部変更の可能性あり

鯨瓦は、今までも、これからも、
熊本城天守閣のシンボルです。

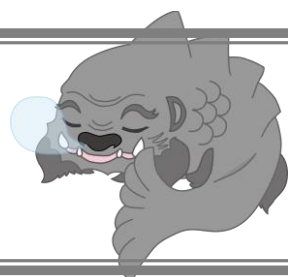
天守閣の展示リニューアル後は、
昭和の鯨瓦実物を展示予定です。
2021年春をお楽しみに・・・。

熊本城の歴史に思いを馳せつつ、
たまには天守閣屋根の「鯨瓦」を
見上げて思い出して下さいね・・・

7) おわりに

【参考文献】・・・鯨瓦について もっとくわしく学んでみたい方へ・・・

- ・熊本市/熊本日日新聞社『復興 熊本城』VOL.2（P28-29）「熊本城の鯨瓦」
- ・熊本市/熊本日日新聞社『復興 熊本城』VOL.3（P30-37）「昭和の鯨瓦」「平成の鯨瓦」
- ・財団法人広島市文化財団 広島城 図録『金箔瓦の系譜』（P31）「コラム 鯨瓦」



ご清聴ありがとうございました